

# 平成23年度 校内研究について

山形市立第一小学校

## 1. 研究テーマ

### 自分の学びを創造する子どもを求めて

～人とかかわる・人とつながる・人と響きあう～

(5年次)

## 2. 研究主題設定の理由

### (1) 本校教育目標から

本校では「感動・感謝・信頼にあふれた学校」を今年度の重点とし、「ともに磨きあい、『より正しく豊かに美しく』を求める子ども」というめざす子ども像をかかげている。そこで校内研究においてその実現を図っていく。

### (2) 本校の特長をふまえて

6つの通常学級、4つの特別支援学級、ことばの教室が存在する。個に応じた多岐にわたる教育実践がなされる本校において、どの学級でも共通して取り組める研究テーマとする。

また、教師も上記テーマに迫るといふ共通理解のもと、個人で窓口を決め研究を進める個人研究方式がふさわしい。教員版「かがやき研究」とも言おう。

### (3) 子ども達の実態から

本校の子ども達は、上級生は下級生を思いやり、下級生は上級生にあこがれを持ち手本としている。また、特別支援学級の子も通常学級の子もお互いのよさを発揮しあいながら自然なかかわりあいができる「みんなが仲のよい」子ども達である。子ども達自身、「全校生の仲の良さ」「学校がきれいなこと」「歌声がきれいなこと」を自慢としている。また、素直でおだやかな子が多く、これまでの伝統や取り組みを継続したり、決められたことや指示されたことに真摯に取り組んだりできる。さらによいものを求め創意工夫したり、新しいことに挑戦したりするたくましさが課題としてあるが、昨年度から児童会を中心に「自分たちでつくり上げる」という意識も出てきた。

そんな子ども達の実態をふまえて「自ら課題を見つけ、課題解決に向けて、他と『かかわり、つながり、響きあい』ながら主体的に学びを創造していくたくましさ」を育てていきたいと考える。

## 3. 昨年度の成果や課題

◎ 昨年度は「自ら学びを創造する＝習得→活用→探究(への意欲)」と捉え、先生方個々の実践で、その具体的な姿を模索してきた。詳しくは昨年度の紀要参照。また、学びを創造するためのベースになっているのが、一小伝統の仲の良さであると捉え、「かかわる」「つながる」「響きあう」中で学びが創造できるように意識して取り組んだ。さらに、言語活動を通して

◎ 教師一人一人がに迫るために、教科・総合・自立活動・言語等窓口を決め、仮説検証方式で個人研究を進めてきた。授業研究では実践グループでの話し合いが持たれ、お互いに学びあう姿が見られた。その話し合いは、「メリーちゃん」というお便りに

なり全職員に配布され、授業を見ていない教師も実践の内容や成果と課題を知ることができた。

◎ 子どもたちの実態や思いに寄り添った実践が多く、子どもの自己評価(ふり返り)、相互評価、指導と評価の一体化を意識して指導してきた。また、事後研では、焦点を絞り事後の実践に生かすことを念頭に置いた話し合いを心がけることができた。そして、出された反省点を先生方がきちんと受け止め、その後の実践に生かしている。

△ 習得から、活用・探究における学びの姿をより明確にしていく必要がある。先生方個人個人の捉え方はもちろん、実践する教科や内容によっても、活用や探究のイメージは異なることが多い。指導と評価の連動性を考える上でもある程度の統一した見解を持って今年度の研究に臨めればと思う。あとは、それぞれの実践で「学びを創造する、習得・活用・探究」の姿をイメージしながら取り組んでいきたいものである。研究者より実践家をめざして。

△ 一小的校内研究は個人研究ゆえ、指導主事からの指導はあるものの、実践している本人が、研究内容に最も精通していることが多い。ゆえに、視点をしぼった事後研究を意識してはいるが、授業者のニーズにあったような意義深い授業研究や事後研修に必ずしもなり得ない。つまり、個人研究方式は、同じ教科を研究する専門性を持った人材が不足するというのが弱点である。そこで、外部研究の機会を持っていくことも必要であろう。

#### 4. 今年度の重点

☆ 研究テーマにある「自分の学びを創造する子ども」を育てるために、全ての学習において「習得」⇔「活用」⇔「探究(への意欲)」の学びの過程を重視する。「習得⇔活用⇔探究(への意欲)」における子どもの具体的姿をイメージして実践する。

☆ 「自らの学びの創造する子ども」という目的達成のために、「かかわる・つながる・響きあう」ことを手段として考え、実践していく。知識や知恵、技能、思いや考え、手や心…などが「かかわり・つながり・響きあう」。そのとき、言葉や文字による言語活動や身振りや表情などの表現が重要な役割を果たす。

☆ 学習形態「個人で、グループで、全体で」「TTのあり方、少人数指導」の工夫と、授業作りと一体となった評価(教師の見取りや教師間の連携)の向上を図る。

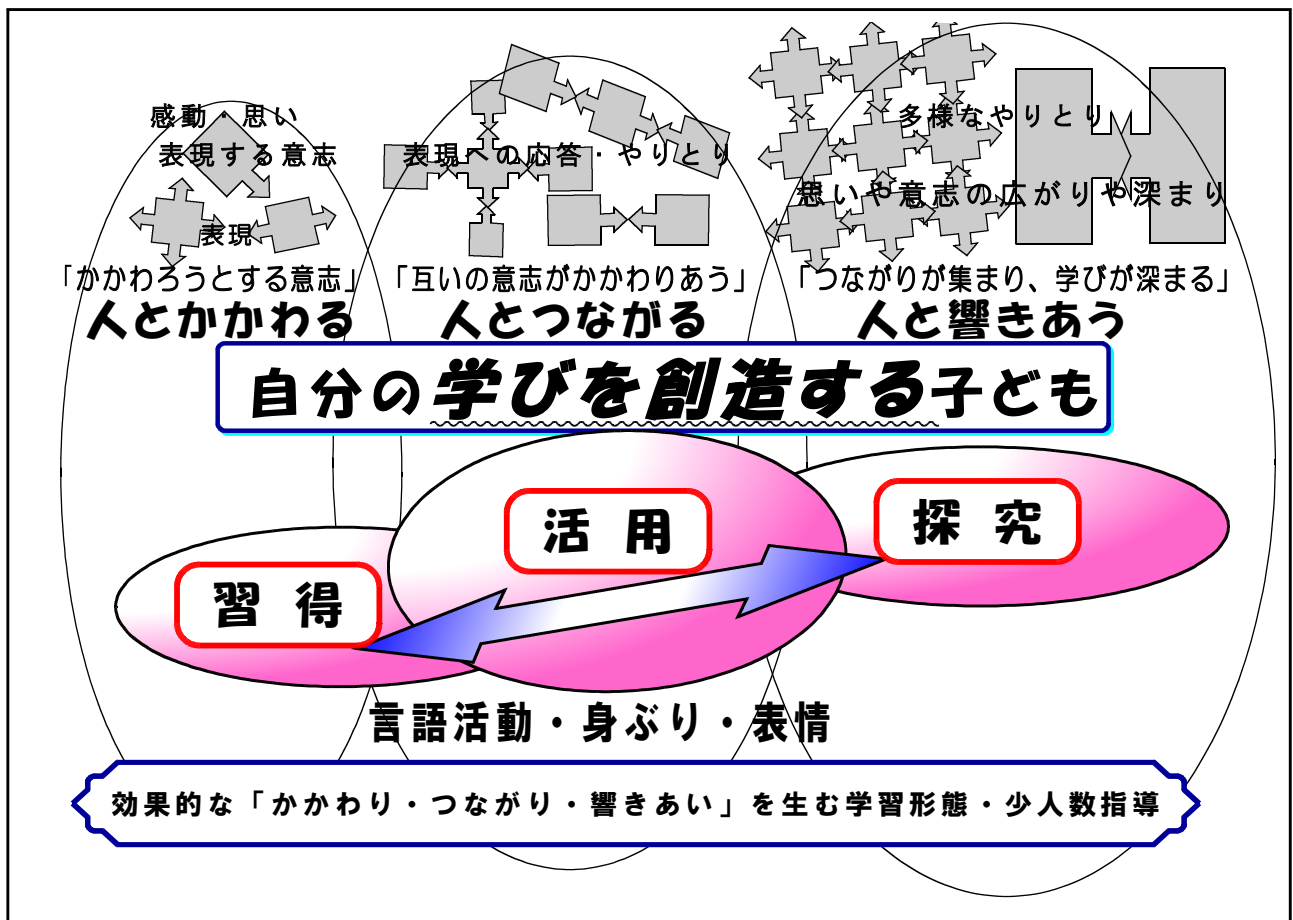
☆ 授業作りのポイントを事後研の話し合いのポイントとし、以後の実践に生かす。

☆ 年間計画の作成と軽重を考えた教科運営。

◇平成23年度「授業作りのポイント」◇

- (1) 研究テーマ実現のための手立て
  - ・「習得⇔活用⇔探究」の位置付けと具体の姿
  - ・「かかわる・つながる・響きあう」場の設定
- (2) 個に応じた支援のあり方について
  - ・学習形態の工夫（個・グループ・一斉等の指導形態、少人数学習・TTの工夫、学習プリントの工夫 等）
- (3) 授業作りと一体となった評価
  - ・ふり返り ・自己評価、相互評価する力 ・教師の見取りと教師間の連携
  - ・課題の共有化と評価とのつなぎ

◇平成23年度「校内研究構図」◇



## 5. 研究の方法

- (1) 全体の研究テーマをもとに、個人研究の窓口（教科、総合 他）を決め、めざす子ども像を具現化し、「**個人研究計画書**」を作成し、1年間追究する。
- (2) その一環として担外を含む全員が**提案授業を公開**する。事後研究会では3つの「授業作りのポイント」（前述）に沿って**子どもの姿から仮説の有効性を話し合う**。外部から講師を招聘し、意見をいただく。（全体研：3授業、ことばの教室授業実践グループは隔年、あとは各授業実践グループ毎に研修するが、**どの先生も時間の許すかぎり参観しあうようにし、その授業の感想を授業者に手渡しする。**）

※授業実践グループ→通常の教科グループA、通常の教科グループB、特別支援学級グループ、ことばの教室グループ の4グループ

- (3) 全ての先生方と提案授業の内容・成果・課題等を共有するために…。
- ①授業提案2～3日前… どの先生も参観しやすいように、授業者・単元名・日時・場所・授業の見所などをかたんに紹介する「メリーちゃん」を配る。
- ②事後研終了後… 研究日より「メリーちゃん」を授業実践グループ内で分担して発行し、お互いの情報の交流を図る。特に、その授業での成果と課題を明らかにし、次につなげていくようにする。

### 「メリーちゃん」について

- ・ 質疑応答、助言などを列記するのではなく、成果と課題とを焦点化し、A4サイズ1枚にまとめる。（最大裏表）
- ・ 「文責」を明記する。

- (4) 子どもの姿から自分達の実践を振り返り、成果と課題を捉え、次年度へ生かす。実践をその都度または振り返りながら、個人研究ファイル等に記録として綴っておく。

## 6. 今後の校内研究の流れ

- 4月中旬 授業実践グループ編成、推進委員会
- 4/26 研究全体会（研究の方向性の確認、今年度の重点、授業作りのポイント等）
- 5/11 研究全体会（個人研究計画書作成→情報交換、提案授業の年間計画、指導案形式提案）
- 6月～2月 授業研究会
- 8月 全体職員研修会「 未定 」
- 2月 今年度の反省
- 2、3月 次年度への展望、個人研究のまとめ（各自）、研究集録作成